



一般社団法人 日本LD学会  
Japan Academy of Learning Disabilities

# 会 報 第108号

事務局

〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイアビル 8F  
TEL 03-6721-6840 URL <http://www.jald.or.jp>



## 主な記事

- ・教育場面での合理的配慮とアクセシビリティ
- ・＜連続講座＞各地の発達障害者支援センターの取り組みPart II
- ・＜連続講座＞将来の自立を目指した、ライフステージを通じた支援
- ・第27回大会（新潟）開催報告・印象記
- ・PATIO～実践の最前線～



## 教育相談で大切にしていること

大阪大谷大学教育学部特別支援教育実践研究センター

小 田 浩 伸

長年、教育相談を担当していますが、教育相談スキル以外で特に大切にしていることが2つあります。

1つは、教育相談が終わったあと、相談室の前ではなく、大学の門まで見送ることを大切にしています。それは前職の教育センターで教育相談を担当していたときの経験からです。建物の5階フロアで教育相談を担当し、終わったらその階のエレベーターの前まで見送ることが定例となっていました。ある保護者の教育相談を終えたとき、まだ本音を話してくれていないことにスッカリせず、5階で「ではまた・・・」と言えずに1階まで一緒にエレベーターで降りてしまいました。そこでもまだ躊躇し、約50m先の門のところまで一緒に歩いて行ってしまいました。いよいよ門の前に着くところで保護者から「実は先生・・・」とやっとそこで本音を話してくれました。ずっと言おうか、言うまいか迷っていたのでしょうか。最後の最後に話してくれた保護者の気持ちが伝わってきて、保護者の思いに寄り添う大切さを改めて

学びました。この経験から、今も教育相談のあとは、大学の門まで見送ることを続けています。門のところで「実は先生・・・」という言葉がなくても、そこまで見送ることで相談者との信頼関係が深まることも実感しています。

2つめは、教育相談のときは、「美味しいお茶」を出すことを心がけています。深刻な相談があっても、「このお茶、美味しいですね。」「久しぶりにお茶が美味しいと思いました。」と相談者が笑顔で話してくれると、それだけで雰囲気が変わる時があります。「またお茶を飲みに来ていいですか。」と言って帰られる相談者に「どうぞ」と応えながら、ホッとすることもあります。そのために、日々、学生と一緒に「美味しいお茶の入れ方」を練習しています。

こうしたことは、教育相談スキルとして必須のことではありませんが、相談者の気持ちにより添う教育相談を実践していくために、これからも大切にしていきたいと思っています。